

厳しくも業務用回復 全米販卸調査 年末は家庭用販売苦戦

全国米穀販売事業共済協（＝全米販）は1月23日、令和4年12月分のコメ販売動向調査の結果を発表した。回答した会員卸59社からのデータを集計。前年同月比で増加が約3割、減少が約4割という厳しい結果となった。向こう3カ月（3月頃）の見通しは、改善・悪化とも約3割ずつで見方が割れている。

①昨年12月と比べた4年12月（1カ月）のコメ販売量

仕向先別		増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
小売店	大手スーパー	13.2%	5.3%	39.5%	28.9%	13.2%
	中小スーパー	3.7%	24.1%	37.0%	25.9%	9.3%
	米穀専門店	3.9%	5.9%	41.2%	31.4%	17.6%
	その他	9.1%	20.5%	22.7%	29.5%	18.2%
業務用	外食向け	7.7%	38.5%	40.4%	9.6%	3.8%
	中食向け	5.4%	30.4%	46.4%	12.6%	5.4%
	給食向け	1.9%	3.7%	77.8%	14.8%	1.9%
全体		11.9%	20.3%	30.5%	18.6%	18.6%

一昨年12月の販売動向と比較した昨年12月のコメ販売量は、「増えた」と「やや増えた」の合計（「増加」）が全体で32%を占めている。「やや減った」と「減った」の合計（「減少」）は37%を占め、増加の割合を5%上回っている。（表①参照）。

②3カ月前（5年3月頃）の見通し

仕向先別		良い	やや良い	変わらない	やや悪い	悪い	DI指数
小売店	大手スーパー	0.0%	18.4%	50.0%	26.3%	5.3%	45.4
	中小スーパー	0.0%	25.9%	42.6%	22.2%	9.3%	46.3
	米穀専門店	0.0%	5.9%	47.1%	37.3%	9.3%	37.3
	その他	0.0%	25.0%	40.9%	29.5%	4.5%	46.6
業務用	外食向け	0.0%	34.6%	50.0%	13.5%	1.9%	54.3
	中食向け	0.0%	26.8%	62.5%	8.9%	1.8%	53.6
	給食向け	0.0%	7.4%	85.2%	7.4%	0.0%	50.0
全体		0.0%	28.8%	39.0%	27.1%	5.1%	47.9

小売店（＝家庭用）向けが苦戦している。スーパー向けの増加が2～3割（大手向け19%、中小向け28%）なのに対し、減少の卸が約4割（大手向け42%、中小向け35%）となっており、減少した卸の割合が上回っている。

米穀専門店向けは増加が1割（10%）、減少が5割（49%）で、卸以外からの調達が見られるとみられる。

一方、業務用向け販売は外食向けが増加した卸が約5割（46%）、減少した卸が約1割（13%）となった。外食向けの好調が前回の調査（昨年9月分）から継続している。中食向けは増加が約4割（36%）、減少が約2割（18%）で、増加傾向が強い。給食向けは増加が1割弱（6%）、減少が約2割（17%）となっており、減少がやや上回っている。総じて業務用向け販売はやや好調で、回復傾向にあるといえる。

一方、向こう 3 カ月先となる 3 月頃を見通した観測については、全体で「良い」と「やや良い」の合計（「改善」）が 3 割（29%）、「悪化」（「悪い」と「やや悪い」の合計）も 3 割（32%）と割れた。4 割（39%）の卸は、「現状と変わらない」と予想している。（表②参照）。

小売店向け販売の予想では大手スーパーが改善 2 割（18%）・悪化 3 割（32%）、中小スーパーが改善 3 割（26%）・悪化 3 割（32%）となり、強い方向感とは表れていない。米穀専門店が改善 1 割弱（6%）・悪化 5 割（47%）に。家庭用米の販売は「変わらない」観測が 4～5 割を占めており、現状維持ムードが色濃い。

業務用向けは改善予測が外食向けで 4 割（35%）、中食向けで 3 割（27%）だった。悪化予測の 1 割前後（外食 15%、中食 11%）を上回り、改善を見通す予想が強い。給食向けは、改善・悪化ともに 1 割弱（7%ずつ）。「変わらない」が 9 割（85%）となり、現状維持の見通しが大宗を占めた。業務用向けは、総じて「変わらない」の割合が 5～9 割と最も高いが、外食と中食は改善・回復傾向が強まっている。

3 月頃を見通した DI 指数は、家庭用向けは米穀専門店以外の業種で 40 台（「変わらない」の「悪化」寄り）にある。業務用向けは、いずれの業種も 50 台（ほぼ「変わらない」）を維持している。全体では 48（ほぼ「変わらない」）となり、2 カ月連続で 40 台後半にある。